從千沼回、雨曾零來、四八津之白水郎網手綱乾有、沾將堪香聞、

右一首、遊覽住吉濱還宮之時、道上守部王應詔作歌、

〔萬葉集略解六〕ちぬは、古事記、五瀨命云々、到血沼海洗其御手之血、故謂血沼海也云々、紀に、河內國泉郡茅渟海と有、續紀靈龜二年三月、割河內國和泉日根兩郡、令供珍努宮云々と有て、今は和泉也、玄はつは既に出、住吉の東方也、

〔日本書紀十一仁德〕十四年十一月、爲橋於猪甘津、卽號其處曰小橋也、

〔攝陽群談七橋〕猪甘津橋

東生郡猪飼野村ニアリ、此所平野川筋ニシテ、小橋村ノ南、木村ノ上ノ堤ヨリ東ニ涉リ、猪飼野村ニ至ル所也、

〔古事記傳三十五〕小椅江、○中略今も東生郡に猪飼野村、小橋村近くてあり、猪飼野村は、大坂城の東南にあたれり、其西に小橋村あり、天王寺より十町ばかり東方なり、さて猪飼野に、今も鶴橋とて、平野川に渡せる橋あり、難波古圖にも、此につるが橋とてあり、

〔書言字考節用集十敷量〕攝州三津敷津、高津、難波津、

〔攝陽群談六津〕敷津

住吉郡住吉ニ屬ス

〔萬葉集十二古今相聞往來歌〕寄物陳思歌

住吉乃、敷津之浦乃、名告藻之、名者告之而乎、不相毛恠、

〔新古今和歌集十羈旅〕玄きつの浦にまかりて、あそびけるに、舟にとまりてよみはべりける、

藤原實方朝臣

舟ながら今夜ばかりはたびねせむしきつの浪に夢はさむとも

〔續詞花和歌集十五旅〕すみよしのへにやどりてよめる

源俊賴朝臣